



北インドでの農村開発を学び、体験する旅

インド農村開発 インターンシップ研修

2025.3.2(日)～3.16(日)

13泊15日

135,000円

世界一の人口14億人超を誇る大国インド。目覚ましい急成長を遂げ、グローバルサウスの中核を成す国として注目度が増す一方で、伝統的な差別、地域間の経済的格差、貧困、農村疲弊等の問題が深刻化しています。NPO法人アーシャ＝アジアの農民と歩む会では2004年度よりインドの人たちと共に持続可能な農業・農村開発を目指し、活動してきました。

アーシャの活動の中で育った農村出身スタッフや学生と協働して作業し、学び合うことによって、貴重な体験を得、SDGs についての理解や興味を深めることができるでしょう。あなたのご参加をお待ちしています。

【活動場所】

インド ウッタールプラデッシュ州プラヤグラージ県サム・ヒギンボトム農工科学大学マキノスクールと近隣農村

【研修目的】 農村開発プロジェクトの実習・見学・調査・ディスカッションなどを通して持続的な農業・農村開発や国際理解を深めていきます。

【スケジュール】裏面又はp.2をご覧ください。

【費用に含まれるもの】 滞在期間中の研修費、宿泊費、食費、インド観光での交通費、通訳・案内経費、デリー国際空港～マキノスクール交通費・送迎費用、NPO法人アーシャ＝アジアの農民と歩む会の会費

【留意事項】 航空券代・保険代・ビザ代・日本国内の旅費は参加費に含まれておりませんので各自ご準備ください。デリー国際空港での集合・解散となります。インド滞在を延長したい方は、個人の責任でご計画ください。同行者をご希望の方は指定の便をご購入ください。

●お問い合わせ・お申し込み先 NPO法人アーシャ＝アジアの農民と歩む会
☎ 0287-47-7840 (担当：川口・三浦) Email: info@ashaasia.org

申し込み締め切り
2024年12月31日



⇐ 学生との協働作業



↑ 農家訪問



↑ 体験発表会



インドの歴史、文化を知る観光 ⇒

スケジュール

日程	午前	午後
3月2日(日)	注意：同行者が必要な場合は、成田又は羽田空港集合	デリー国際空港到着ゲート集合。夜行寝台列車でプラヤグラージへ移動 寝台列車泊
3月3日(月)	プラヤグラージ着 オリエンテーション	マキノスクール内の事業 活動見学 大学泊
3月4日(火)	個別研修①	大学泊
3月5日(水)	全体研修① - 農村訪問-	大学泊
3月6日(木) ～7日(金)	個別研修②・③ 7日夕食時 親睦会 (参加者企画)	大学泊
3月8日(土)	早朝、ブッダガヤ へ出発 (汽車)	ブッダガヤ観光とブッダの 遺跡見学 ゲストハウス泊
3月9日(日)	ブッダの足跡とインドの仏教について学ぶ 夜、プラヤグラージへ戻る	全体研修② 大学泊
3月10日(月) ～11日(火)	個別研修④・⑤	大学泊
3月12日(水)	食について考える 全体研修③	多様な健康料理をつくる 全体研修③ 大学泊
3月13日(木)	個別研修 ⑥	大学泊
3月14日(金)	(個別研修) ⑦	発表及び送別会準備 夕食時 お別れ会 大学泊
3月15日(土)	発表会・評価会 全体研修 ④	プラヤグラージ市観光後、 夜行寝台列車でデリーへ 移動 寝台列車泊
3月16日(日)	朝、デリー到着 デリー観光	夕刻デリー国際空港にて 解散 (翌朝、帰国)

◎個別研修内容(選択)

- ・有機農業と農村開発
- ・農村女性開発と手工芸品デザイン
- ・農業組合と市場開拓

◎全体研修内容

- ・農村部訪問、多様な料理
- ・シェアリング、発表会
- ・ブッダガヤ観光
- ・朝の農作業(自由参加)

プラヤグラージ県 ってどこ？



ウッタールプラデッシュ州南東に位置するプラヤグラージ県は人口112万、聖なる河、ガンジス河とヤムナー河が合流するヒンドゥー教の聖地として知られ、インド全土より巡礼者が来訪します。1月から3月まで、当地で開催されるマハ・クンブメラ(大祭)は世界最大の祭としてギネスブックに登録されています。

ご不明な点はメール (info@ashaasia.org)又は電話 (0287-47-7840) にてお問い合わせください。

マキノスクールとNPO法人アーシャ＝アジアの農民と歩む会の関係

マキノスクールはインド ウッタールプラデッシュ州プラヤグラージ県にあるサム・ヒギンボトム農工科学大学にある学部です。農民のためのプログラムを実施し、長きにわたり農村開発事業を行っています。

NPO法人アーシャ＝アジアの農民と歩む会は、マキノスクールを支援するために2004年に設立され、日本人スタッフ・専門家の派遣やスタディーツアー企画などを行ってきました。

現在では持続可能な農業・農村開発と有機農業の普及、女性の地位向上と収入向上、組合活動、収入向上などのプロジェクトを現地の人たちと共に進めています。



マキノスクール
(サム・ヒギンボトム農工科学大学)